

# 天気晴朗 なれど 波高し

西田 雅昭  
NISHIDA, Masaaki



Illustration : Toshiyuki Ido

Visual Basic .NET 奮戦記

第6回

.NET習得の“カギ”は  
コレクション

level

1 2 3 4 5

Technology Tools

Visual Basic  
 Visual C#  
 Visual C++  
 SQL Server  
 Oracle  
 Access  
 ASP.NET  
 Other:

Samples

我輩の名前は「頑固一徹」。我輩の働いている会社でも、いよいよ本格的に開発環境を.NETに移行することになった。社内のトップは、これまで、あまり.NETに乗り気ではなかったのに、C#がJISで標準プログラミング言語として制定されたと聞いて、急に慌て出したのだからまったくもって馬鹿げた話だ。社内では、いろいろな不満が鬱積しているようである。長年にわたって、Visual Basicでシステムを開発してきた我輩としても、どうも納得のいかないことが多々ある。今回はまず、これについて書くことにする。



## システムの設計

社内の声で到底信じられないのが、「.NETになって、システムの設計法がわからない」というものである。

システムの設計は、開発環境が変わっても、そんなに変わるわけではない。Visual Studio .NETを使ったシステムの設計がわからないというヤツは、システムの設計自体について理解していないからに違いない。

## 何が必要か？

ところが、よくよく聞いてみると、

・.NETで作成するシステムでは、エン

- ティティをすべてクラス化する
- ・今後は、すべてを3階層分散アプリケーションで作成しなければいけない
- ・データをすべてXMLとして保管したい
- ・Webのサーバーアプリは、ASP.NETで作成する
- ・何でもかんでもWebサービスを利用してコンポーネント化する

などということが、上司から求められるし、なんとクライアントも、これらを要求してくるというから信じられない。

たしかにこれらは、Visual Studio .NETの誇る機能であり、マイクロソフト社の文書でも、いやというほど読まされてきた。しかし、我が社の管理職

が、これらの概念を正しく理解しているとは、とても思えないし、クライアントも、聞き覚えた言葉をオウム返ししているだけなのではないだろうか。思うに、どうも最新の技術用語だけが一人歩きしているような気がする。

インターネットのシステムで、XML WebサービスとSOAPで情報を自由に交換したい、というのもよく聞く話らしいが、そのシステムを要求してきたクライアントは、本当にそのような情報管理が必要なのだろうか。

我輩は、クライアントが、コンピュータのシステムに期待している内容を、具体的に理解し、それを、できるだけ安価に、短い時間で提供できれば、それで十分なのではないかと思っている。

我が社の営業もSEも、クライアントと話し合う際に、コンピュータの専門用語など使わずに、使う側（システム担当よりも現場の事務員、コンピュータに詳しい人物よりも業務に詳しい人）の話をよく聞いてきてほしいものだ。

もちろん、営業が高額の制作費を分捕ってきてくれるのなら、また、際限もなく仕事を取ってきてくれるのなら、我が社としては、オーバースペックな内容は大歓迎だろう。ただし、新しい技術を習得する時間を用意してほしいし、技術者も増やしてほしい。

### 我輩の考え

.NETを目の敵としていた我輩だが、VB.NETを触わっていくうちに、この開発環境が使いやすいことが少しずつわかってきた。たしかにプログラマに親切的な機能やツールが多い。

しかし、長年にわたって、Visual Basic 6.0で多くのシステムを作成してきた我輩としては、頑固一徹、今まで

の流儀を変える気はない。変えずとも、使う人たちに喜ばれるシステムを作成する自信がある。これが経験というものだ。

我輩にはエンティティをすべてクラスで記述する能力はないし、内容を分析する時間もない。しかし、データベースの最適化については、長い経験があるし、若干の自信もある。もちろんクラスを利用すると便利なのは感じているから、少しずつ採用するかもしれない。

我輩は、忙しいときにはBasic固有の関数やステートメントをどんどん使うことにしている。そのうちに覚えたものから、.NET Framework固有のものに少しずつ移行すればよいという考えだ。

ただし、これらはあくまで開発者である我輩の考えであって、我が社全体として考えると、技術の蓄積として、クラスの形でコンポーネント化を進めることは必要だろう。それならば、優秀な技術者を養成し、汎用クラスや便利なコントロールをどんどん作ってくればよい。我輩は喜んで、それを使わせてもらう。

しかし過去を思い出すと、隠蔽性のあるサブルーチンの蓄積ができなかったのだから、絵に描いた餅なのかもしれない。

### 嘘のような本当の話

あるクライアントが、

「今後プラットフォームがどのように変わるかわかりません。弊社の持つデータは、すべてXMLファイルの形で蓄積したいと思います。まずは、弊社のデータベースをすべてXMLファイルに変更していただけますか？」

と言ってきたという。これが完成したら、どんなことになるか、懸命な読者はおわかりになるだろう。

また、先日、開発会社にいる、我輩の友人から次のような質問を受けた。

「いろいろなエンジンのデータベースを処理する際には、Webサービスを使わなければいけないのでは？」

用語辞典かインターネットで「Webサービス」を引くと、この答えを見ることができるだろう。

### .NETを恐れるな！

C++が現われたときに、我が国のプログラマの多くは、C++をオブジェクト指向言語として捉えるよりは、単にコードのチェックをよくやってくれるC言語として付き合い始めたような気がする（何よりの証拠は、C++のユーザーよりもJavaのユーザーのほうがC#に付き合いがよかった）。

だからといって、C++が使いにくい、といった人は少なかったと思う。OOPなど意識せずに、文法のチェックが厳しい、ただのCだと思って使っていたはずである。

Visual Studio .NETも、あまり意識せずに、開発環境（IDE）が親切で使いやすいくなっただけで、以前と同じように使えば、そんなに面倒はない、と思えば、なかなか便利なものである。

要は、Visual Studio .NETが提供してくれる新しい機能を無理して利用しないことだ。大切なことは、まず使ってみることである。そして、きちんと動くコードを書いてみることである。ある程度コーディングができるようになってから、新しい機能を勉強すれば